



ごりようかく

文責:長澤永子(教頭) Tel0267-82-2331

「10月15日(土)田口峠マラソン・遠足」

ラストのこの日。伝統を受け継いできた子どもたち。その日にふさわしい走りを見せてくれました。1人ひとりが自分と向き合い最高のベストを尽くしました。1・2年生も自分たちだけで6.8kmを歩くのは不安もあったと思います。己に克つそんな一日だったと思います。また、たくさんのボランティアの方々、消防団の方々ありがとうございました。子どもたちは大人になったとき、小学生の時に峠を走ったり、歩いたりしたこの経験を思い出し懐かしく語り、誇りに思うことでしょう。



校長室だより

そよ風のような存在

校長 井出 誠一

「カタチには何も残らない五輪でしたが、この先もそよ風のように『あ、今の風心地良かったな』とだけ思っていたら幸いです。」

これは、今年2月に開催された冬季北京オリンピックの後、スピードスケートの小平奈緒選手がSNSで発信したコメントである。

彼女は、オリンピック直前に右足首を捻挫し、その影響で金メダル連覇を期待された500mで17位、1000mでも10位と本来の力を出し切れないまま大会を終えた。それまで多くの時間を練習にあて、周囲の期待を受けてオリンピックに臨んだ選手が、大会直前でパフォーマンスに影響を与えるほどの怪我を負ったことによる失望感は、私たちの想像を越えるほど大きかったに違いない。現に、怪我を負った彼女は、体と心の歯車がかみ合わなくなり、焦りからオリンピック出場を断念しようとも考えた。

「現実を受け止めることで、私は再出発することができた。」

当時の自分を振り返って、後に彼女はそう語っている。怪我をしてしまったことは紛れもない事実。無かったことにはできない。その自分が、今、やるべきことは何か。怪我を受け入れ、再出発を期した彼女の決意がうかがえる言葉である。そして、その言葉どおり、彼女は堂々とオリンピックの舞台に立った。金メダル連覇は叶わなかったものの、今できる最高のレースを私たちに見せてくれたのである。彼女は、自身のレースを振り返って、「成し遂げることはできずとも、自分なりにやり遂げることはできた。」と語った。

彼女の言う「そよ風のような存在」とは何だろうか。私は、単に爽やかさだけでなく、しなやかさと強さを兼ね備えていることだと思う。彼女が語る言葉からは、その要素が十分に感じられる。

その小平選手が、本校の閉校記念式典で講演してくださることになった。現役選手を退き、新しい一歩を踏み出そうとしている彼女から、新校に向かう子ども達へのエールを送っていただけることを期待して止まない。

【お知らせ】小平選手の引退レースの様子が、10/22(土)12:00~NHK BSIで放映されます。よろしかったらお子さんと一緒に応援してください。

◆新小学校での運動着の着用について◆

- ・新小学校では、学校指定の運動着があります。販売業者（小山スポーツ様）から注文用紙をいただきましたので配布させていただきました。
- ・学校指定の運動着以外も着用可能とします。洗濯替えなどの場合は、学校指定以外でも構いません。特に、新6年生においては、新校での在学が一年間のみとなりますので、必ずしもご購入いただかなくても結構です。

◆通学路工事について◆

今月末より、学区内通学路（原交差点～田口児童館周辺）において歩道拡張のための道路工事が開始されます。学校でも指導しますが、各ご家庭でもお子さんに注意して通行するようにお声がけください。また、保護者の皆様も、登下校時に当該道路を通行する場合は、児童の歩行にご注意いただきますようお願いいたします。児童の歩行の様子についてお気づきのことがございましたら、学校までご連絡ください。

★9月10日(土)に行われた「資源回収＝アルミ缶回収＝」の金額が、

32,626 円になりました。

地域の方、保護者の方、たくさんの方々のおかげです。ご協力ありがとうございました。このお金は閉校記念誌の補助金として使わせていただきます。